

社会貢献

良き企業市民として真に豊かな 社会の実現に貢献するとともに、 地域社会と良好な関係をつくり上げます

社会貢献の基本理念と活動体系

OKIは、1996年に「社会貢献推進室」を設置し、基本理念・基本方針を制定しています。OKIグループもこの理念・方針に則り、寄付や保有施設の開放、社員のボランティア活動支援などを組織的に推進してきました。

ボランティア活動には、月々の募金による寄付型の活動と、社会福祉や環境保全などに関連する参加型の活動があります。また、より幅広い活動を行うために、各種の非営利組織(NPO)と広く交流・協働しています。

2007年度は、スローガン「できることから始めよう!」のとおりに、「OKIらしい社会貢献」をさらに展開するため、メールやイントラネットによる社員への情報発信や、より多くの社員が参加できる貢献活動の創出に努めました。

社会貢献活動 基本理念・基本方針

「基本理念」

良き企業市民として真に豊かな社会の実現に向けて、考え、行動し、共感を得る社会貢献活動を実践する。

「基本方針」

〈会社の活動〉

- 会社の資源(人材・資産)を活用し、地域や国情に合った社会貢献活動を継続する。
- 社員が誇りと活力を実感し、また企業イメージを高めるOKIらしい社会貢献活動を志向する。

〈個人の活動〉

- 社員一人ひとりの人間性の発露としてのボランティア活動を推奨し、支援する。

「スローガン」

できることから始めよう!

寄付型ボランティア活動 「OKI 愛の100円募金」

「OKI愛の100円募金」は、活動の主旨に賛同するOKIグループの役員・社員から毎月100円の募金を集める寄付型ボランティア活動です。2007年度末時点で、OKIグループ35社の役員・社員が参加しています。一口を100円として一人最大3口まで寄付額を選択できるような制度を変更する(2006年度)など、資金の安定確保と活動拡大を目ざしていますが、2007年度は資金不足のため、2001年から継続してきた海外難民キャンプ等への古着支援活動を一時休止しました。

»「OKI 愛の100円募金」2007年度活動実績

日本赤十字社への献血運搬車寄贈	300万円 (マッチングギフトによる総額)
難民キャンプ等への古着支援	一時休止
重度障がいがある方の在宅就労支援事業への寄付	200万円
社員が関わりをもつボランティア団体の支援	297万円 (24団体を支援)



香川県赤十字血液センターに寄贈した献血運搬車(2008年2月)

社員が関わりをもつボランティア団体を支援

OKIグループは、社員や社会貢献推進室の申請に基づいて、社員と関わりをもつボランティア団体に「OKI愛の100円募金」による資金援助を行っています。2007年度は、日本聴覚障害者建築協会(AAJD)による「SOSカード」の作成に協力するなど、計24団体を支援しました。

「SOSカード」は、口頭での意思疎通が難しい人たちが体

2007年度

注力ポイント

- 「OKIらしい社会貢献」の再確認とグループ展開
- ボランティア活動等に関する社員への情報発信強化

2007年度

主な取り組み

- より多くの社員が参加できる活動を創出

2008年度

注力ポイント

- 難民キャンプ等への古着支援活動の再開
- 地域貢献活動の強化
- 自治体・NPOとの協働活動

の痛みや症状、思っていることなどを指で指すことにより他人に伝えるもので、事故・災害時の救急隊との対応などに備えた内容となっています。カードの開発および評価実験にはOKIコンサルティングソリューションズが、また、デザインおよびAAJDのWebサイトへの掲載にはOKIワークウェルが協力しました。



SOSカード(AAJDのWebサイト
<http://www1.s.wisnet.ne.jp/~aajd/>でダウンロードできます)

「NPO活動報告会」を実施

OKIグループは、社会貢献活動で協働しているNPO(非営利団体)の活動に対する社員の理解を深め、コミュニケーションを促進するために、毎年「OKI愛の100円募金」で支援するNPOの中から2団体を招き、活動報告会を実施しています。

2007年度は、OKIが事業所でのドナー登録会開催について協働をいただいている「財団法人骨髄移植推進財団」、および外国人留学生のための日本語文学新人賞である留学生文学賞を主催する「留学生文学賞委員会」から活動のご紹介をいただきました。

参加型ボランティア活動

森林ボランティア「OKI山と緑の協力隊」の活動

OKIグループでは、社員・家族が参加する「OKI山と緑の協力隊」を結成し、地域の森林の整備を行うとともに、地元の方々との交流を深めています。

2007年度は、長野県小諸市の「OKIグループが育てる森」および群馬県高崎市の観音山にある「OKIグループふれあいの森」でそれぞれ2回除伐・間伐を行ったほか、静岡県伊豆市でも間伐作業を行いました。これらの活動はそれぞれ、小諸市、群馬森林管理署、NPO法人地球緑化センターなどの協力をいただいて実施しています。



「OKIグループが育てる森」にて

「全国学校ビオトープ・コンクール2007」

発表会を支援

OKIグループは、2001年から、優れた環境教育である「学校ビオトープ[※]」を支援しています。2008年2月10日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された「全国学校ビオトープ・コンクール2007」発表会(主催:日本生態系協会)では、OKIのビデオ会議システム「Visual Nexus」を活用して北海道、徳島、大阪の幼稚園や小中学校に中継し、遠方の学校関係者の方々に発表会場の様子をご覧いただきました。また、撮影した映像は、学校ビオトープの普及にも活用されます。



発表会の様子(左)を生中継するOKIグループのボランティアスタッフ



※学校ビオトープ：自然の仕組みや自然と共存するための知識および技能を体験的に学習する取り組み。

竹とんぼづくりを通じた貢献活動

OKIグループは国際竹とんぼ協会の協力を得て、1999年度からほぼ毎年、児童養護施設の子どもたちを招いて「竹とんぼ大会」を実施しています。2007年度は11月10日に東京都府中市の郷土の森博物館に23名を招待し、一緒に竹とんぼやあやつり人形づくりをしました。

良き企業市民として真に豊かな 社会の実現に貢献するとともに、 地域社会と良好な関係をつくり上げます

ラオス語絵本をつくって現地に寄贈

OKIグループはNPO「ラオスのこども」の協力を得て、「ラオス語絵本をつくってラオスの子どもたちに送ろう!」というイベントを毎年実施しています。日本語の絵本にラオス語の



「OKI愛の100円募金」がスポンサーになって現地出版した絵本や紙芝居の紹介

翻訳を貼ってラオス語絵本をつくるほか、ラオスにまつわるクイズなどを通じて、現地の文化への理解を深めています。

2007年度は、OKIグループの社員と家族、「ラオスのこども」の研修旅行に参加する学習院女子大学の皆さんなど34名が参加し、60冊の絵本を完成させました。

より多くの社員が参加できる貢献活動を創出

OKIは2007年度、より多くの社員が社会貢献活動に参加できるよう、新たに2件の活動を実施しました。

●SELP自動販売機の設置

2007年5月、OKI本社に、NPO法人日本セルフセンターが設置事業を行っているSELP[®]自動販売機を設置しました。社員がこの自動販売機で飲み物を購入することで、その代金の一部が社会就労施設の商品・事業の広告や啓発事業等の働く障がい者への応援事業に活用されます。



※セルフ(SELP)：社会就労センター(法律名称は授産施設)。

●臓器提供意思表示カードの配布

2007年4月、OKIオリジナルの「臓器提供意思表示カード」を作成しました。OKIのオリジナルカードは血液型を記入できるようにしてあるのが特長で、希望するOKIグループ社員に配布しています。



国内外での地域貢献活動の強化

介助犬の訓練場所と物品を提供

2008年3月、OKI八王子地区(東京都八王子市)において、社会福祉法人日本介助犬協会が実施する介助犬の訓練が行われました。事業所近隣にある同協会の依頼を受け、地域貢献活動の一環として協力したものです。OKIではこれにあわせて犬のケアのための雑貨(タオル、毛布、洗剤)の収集も行い、同協会に提供しました。



バリアフリーに関わる講演活動を実施

OKIワークウエルの在宅勤務社員は、自身の障がい者としての体験を活かし、地域の学校等でバリアフリーに関する講演活動を行っています。2007年度は、NPO法人キャリアワールドや社会福祉法人葛飾区社会福祉協議会かつしかボランティアセンターの依頼を受け、東京都千代田区や葛飾区の小・中学校等で、車椅子生活の不便さやバリアフリーの必要性について講演を行いました。



中学校での講演と、車椅子介助体験の様子

香港の学校・施設にカラーLEDプリンタを寄贈

OKIデータは、2008年3月、NPO仁愛堂(Yan Oi Tong)を通じて、香港の学校や施設にカラーLEDプリンタC8600を寄贈しました。今回の寄贈はカラープリントを身近に体験することによる学習やリハビリテーションのモチベーション向上とコミュニケーションの充実を目的に、地域社会への貢献として実施したものです。

